



# 和顔愛語

寺報

令和4年3月号

## 雪どけが大地の塵を取り去るように 心の塵をなくして清々しい春を

2月20日、冬季五輪が閉幕しました。スキージャンプやカーリングなど日本選手団の活躍が励みになった方も多いことでしょう。五輪は普段見ることのない競技にふれる機会でもあり、ウィンタースポーツの多様さを知ることができます。

開催地である北京は、日本の岩手県盛岡市と同じくらいの緯度であり、冬は最低気温が氷点下を下回りますが、内陸ということもあり降雪量は少ないようです。その一方、今年の日本は雪が多く、寒いものになりました。北海道や日本海側の豪雪地帯では、例年よりもたくさん雪が降った地域も多いようです。雪は顕微鏡で見ると美しい結晶であり、その形は天からの贈り物のようにも感じますが大雪や豪雪となれば、その美しさを味わうゆとりも薄れはやく雪が溶けることを期待する気持ちが大きくなることでしょう。

真っ白く覆われた大地の雪どけによつて、そこに積もった塵ちりが除かれるとともに春の訪れや清々しさを感じられます。

雪に関して、法然上人は「雪のうちには仏の御名みなをとなうれば積もれる罪ぞやがて消えぬる」と詠うたいました。日々お念仏をとなえた法然上人は、もちろん真冬の雪空の下でもその声を絶やすことはありませんでした。

しんしんと積もる雪のように、人は生きていくうちには気づかぬ罪をおかしてしまうもの。それは法律で裁かれるような目に見える罪ではなく、心の中で相手の事を悪く思ってしまう事なども含まれます。冬が過ぎ春が訪れて、地表を覆った雪がその塵を洗い流すように、お念仏の功德が心に積もり、やがて私達の心の塵を取り除いていく。お念仏と共にすごした法然上人だからこそ、雪どけをそんな思いで見ることができたのでしょう。私達も清々しい春を迎えられるよう過ごしてまいりましょう。

# お経の意味を知ろう⑦ ～日常勤行式編～

## ほんぜい げ 【本誓偈】

浄土宗では「日常勤行式」と呼ばれる式次第のつとに則って読経します。式次第に書かれているお経(偈文)について毎号解説します。

みだほんぜいがん  
弥陀本誓願

ごくらくしやうもん  
極楽之要門

じやうさんとうえこう  
定散等回向

そくしやうむしやうしん  
速証無生身

十念(南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏…)

### 【意識】

阿弥陀様の本願は、私達が阿弥陀様に救われて極楽に往生するための要となるものです。すべての善根功徳をふりむけて、速やかに生と死を超えた身となりましょう。

「お経ってどんなことが書かれているの？」誰しも一度はそんな疑問を持ったことがあるのではないでしょうか。

お経はお釈迦様の教えを文章にまとめたものです。ここでは日頃のおつとめ(勤行)で読経する式次第をまとめた「日常勤行式」を丁寧に解説していきます。

### 【解説】

前回、木魚の音に合わせて「四誓偈」を読み終えました。続いて、おつとめの主旨にあわせた回向文を読みます。ここでは、日常勤行式で読まれる代表的な偈文「本誓偈」を説明しましょう。

意識の一節目には阿弥陀様

の本願(第十八願)お念仏を

となえた者は必ず救われる)は、極楽に往生するためには肝心要の入り口であることが述べてられています。

偈文に「定散」、意識に「善根功徳」という少々難しい言葉が出てきます。「定散」とは「定善」、「散善」を合

わせた言葉。定善は、心にわずかの曇りもなく、仏様の姿や極楽の様相を念ずること、散善は、心が散漫になって集中できない者(凡夫)私達)でも修められる、道徳的な善行をいいます。また、「善根功徳」の「善根」は善をうむ根本、「功徳」も、良い結果をもたらす善行のことで、つまりこの部分は、生活全般の細かなことまで含めた全ての善い行いをふり向けて、と理解できるでしょう。

最後に、「生死を超える身」とは、超能力などではなく、お念仏によつて全てを阿弥陀様にお任せすることで、生死に対する不安や煩わしい思いが消え、この世での命を終えた後は極楽への往生が決まる身となる、ということ。 「本誓偈」は阿弥陀様への信心をあらためて確認し、お念仏や善行により、生死を超えた身となりましょう、と説かれてい

## 浄土宗の基礎知識

### 〽 礼拝 らいはい 〽

仏様に対して頭を下げて敬意を表すことを礼拝といいますが、この礼拝にはいくつか種類があり、法要中、お導師をよく見ると①合掌したままおつむを下げる礼拝、②おつむを下げた時に耳の横あたりで両手のひらが上向きになっている礼拝(写真左)、③一度立ち上がった後に深々と額を床につける礼拝などがあります。③の礼拝は五体投地といい、仏様の足に自分の頭をつける形を示します。自分の一番高いところを、相手の一番低いところにつけるこの形は、インドでは最高の敬意の表し方とされ、仏教でも用いられています。





# Q&Aですぐわかる! なるほど浄土宗

⑦

身近な仏教の疑問をQ & A  
形式で説明します!

——お坊さんはどうしてお経を読むのでしょうか。

——僧侶がお経を読むのは二つの意味があります。一つはお釈迦様の言葉を伝承していくため、もう一つは読経が修行であるからです。

お経は仏様が遺した言葉です。仏様が言葉を遺したのは、紙に文字を書くという方法ができる前のことです。ですから長い間、それは弟子から弟子へと口頭で伝えられてきました。お経を読むことは、



大切な仏様の教えを次世代につなげていく役割を果たしています。たくさんの

人が読み継いできたからこそ今も継承され、そして未来につなげるべく今もお経を読んでいるのです。

「お経を読む」＝「読誦<sup>どくじゆ</sup>」は功德のある修行の一つです。声を出してお経を読み、その内容を理解することは僧侶のなすべき修行です。それに加え、誰かに聞いてもらうことは、仏様の魅力を伝える大切な営みです。僧侶が普段読むお経は、後者の役割を果たしています。

お経は一連の流れのように聞こえますが、実は様々な経文の組み合わせでできています。経文には一つ一つに意味があり、法要によつて組み合わせも異なります。法事やお葬儀でお経を読むことも、僧侶自身の修行であるとともに、亡くなった方や参列者にお釈迦様や阿弥陀様の教えを届けるものです。特に南無阿弥陀仏のお念仏は誰がとなえても等しく功德があります。ご供養の折には、ぜひおとなえして、皆さんの声を仏様や亡くなった方に聞いてもらいましょう。

## 住職あいさつ

先日は長男誕生のご報告をさせて頂きました。どんなに辛い状況であったとしても、子どもの笑顔は癒されるものだなと日々感じております。先代も「子どもは小さな頃から笑顔という布施行を親にしているのだから、親孝行を期待してはいけない」という話をしておりました。親になった今先代の言葉の意味を実感し、笑顔の力というのは改めて偉大なものであると、強く感じております。

笑顔は子どもにしかできないことではありません。老若男女問わず、いつでもどこでも誰にでもできる事です。相手の気持ちを汲み、少しでも穏やかになることを願い、笑顔を振り向けたならば、その気持ちは何十倍にも広がっていき、平和な世界へと続くのではありませんか。子どもを見習い、今日も一日一人でも多くの人の笑顔が増えるよう、過ごしてまいります。

### 普照山 正定寺

■所在地  
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2  
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

### 紫金山 静蓮寺

■所在地  
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21  
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

### 母沖山 清見寺

■所在地  
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

## 代理墓参 承ります

コロナ禍でなかなかお墓参りにも行けない…そんなお声が多数寄せられましたので、住職が代理でお墓を掃除し、お参りをいたします。ご希望の方は、直接ご連絡いただくか、冥加料を現金書留にてご郵送ください。後日お参りの様子をお手紙にてお送りさせていただきます。

